

令和5年度第1回青森県立郷土館協議会について（会議概要）

令和5年度第1回青森県立郷土館協議会が開催されましたので、その内容をお知らせします。

1 日 時

令和5年7月20日（木） 午後1時30分～3時7分

2 場 所

青森県立郷土館 小ホール

3 案 件

- (1) 令和5年度事業実施状況及び利用状況
- (2) 令和6年度事業実施計画（案）
- (3) 青森県立郷土館の博物館評価
- (4) その他

4 委員からの主な意見

- 青森県博物館等協議会について、ホームページには構成館の情報だけが載っている。館報に青森県博物館等協議会のことが書いてあるのであれば、どのような活動をしているのかということが、どこかに現れてきた方がいい。何か情報公開をされていると学生にとっても、役立つと思うし、市民の方々も何か博物館に興味を持つきっかけの一つとなるのではないかと。
- 教育普及については、もっと広報・周知してほしい。自然だとか、郷土を知ることによって面白みを感じていて、その知識を得ることを楽しんでいる、という方が多くいることで、今の参加者数となっている。郷土のことを理解できる、こういうイベントがあるということが、もっと周知された方が良い。また、アンケートにあった参加してみたいイベントが新年度事業に組み込まれているのか。参加者からあった、こういうところがよかった、こうしてほしい、という声が、こういう協議会の場合だけではなく、もっとオープンになっていくといいと思う。
- アンケートに、巡回展はよかったという意見が多いが、令和5年度はその巡回展がなくなり、サテライト展に変わっている。3か所で巡回展をやったことで、全県的に郷土館を応援するような雰囲気盛り上がったところだと思うのに、また下火になってしまうのはすごくタイミング的に悪いように感じる。
- 大学や他の博物館等で持っている調査研究のリソース、博物館だけでなく、博学連携とか、例えば高校でも地域調査などを最近されていますので、そういうところと連携して、何か大きいものではなく、小さい展示などをいっぱいやってみてもいいのではないかと。大学でも、取組の可視化というところが意識されているので、そういった情報をもっと利用

してもらえればいいと思う。

- これまでは、一方的に鑑賞者や聴講したい方に対して享受するというスタンスだったものが、これからは参加型のものがどんどん増えていくように思う。参加する方が積極的に考えて、やってみて、ただ聞くだけではなくて自分たちで何が課題になっているのか、今の青森を思うのと同時に、これから先はどうやっていこうか、など、自分たちが参加するような内容がもう少しあってもいい。自分が参加しているという意識が、興味関心に繋がったり、もっと郷土に目を向ける一歩になったりすると思う。ただ聞くだけのものから、土曜セミナーもそうだが、いろんな方が、町会の方だとか近隣の方、それこそ遺跡の近くに住んでいる方とか、そういった方が先生になれるような、子どもが先生になれるような、そういう機会があってもいい。
- 展示を作ることで自体に子どもたちが参加する、ということがあってもいい。例えば小学校で一緒に授業をやって、その結果を展示に生かすとか、そんなことを考えてもいいのではないか。
- 例年、博物館大会が行われている。青森県全体の博物館のレベルアップをさせるために、郷土館がイニシアティブをとって取り組む、そういう姿になっているはずと思っている。こういう取組によって全体のレベルが上がり、すべての県民が、博物館を利用して、自らの郷土のことなどに関して、様々な視点で物事を捉えることができるようになるならば、この博物館大会は、どんどん進めていく意義あるものになると思う。
- 調査研究では、調査を行って、報告書を紀要に掲載するという流れだと思うが、郷土館の使命としては、報告書を出すだけで終わるわけにはいかない。計画年次はあるが、その先をどれくらい考えてこの事業をやっていくのか。その間には、人の入れ替えもあると思うし、先を見て進めないといけない。調査期間が過ぎたらそれでおしまいではなく、調査研究したら、その終わった後何年間先のところまでを想定して、郷土館として取り組んでほしい。
- 県の教育委員会の方でも、郷土の歴史を皆に語り継いでいくような、そういうブームを盛り上げてほしい。みんな自分の町にはこういう歴史があったのかと、感動します。どうかしてそういうブームを盛り上げて、みんなが地元の歴史に関心を持ってくれば、郷土館にもまた関心持ってくれると思います。
- 調査研究について、郷土館の職員が研究するものはあるが、例えば市民が研究したものを、博物館の成果の中に載せていくプラットフォームのようなものも、検討が必要ではないか。滋賀県立琵琶湖博物館のように、市民の方々が博物館のサポーターという形で研究に参加する、というのがよく見る例。研究のところで、我々が、市民と博物館は全然違うと分けてしまうと、かえって博物館に対する興味を失わせてしまう可能性がある、ということも考えられるので、そういったこともぜひ検討いただきたい。

- 郷土館資料の退避の件だが、他県の施設なども、対応しなければいけない可能性もある。どんどん県内に限らないで、探してもらいたい。郷土館がそう思っている、別なところで駄目だっていうことがあるかもしれない。やはりとにかくいい方向に持って行ってほしい。
- 資料退避してしまうのであれば、サテライト展や連携展にしてしまって、資料を展示した方が良くはないか。ただ預かってもらうよりも、外部で展示する機会となり、また、普段お披露目されないものが展示できたりするのではないか。
- 前回の会議で、リニューアル案の資料を提示いただいたが、ここに集まっている委員の方は、学校の先生や教育関係に携わっている方が多いのに、それが施設の作りや仕組みにあまり反映されていないように思った。せっかく学校に携わる方々が集まっているので、子どもたちがより楽しみながら、ゆったりとせわせわしてせかせかしないカリキュラムというか、そういったことになるような仕組み、一般の方向けだけでなく、どうせリニューアルするのであれば、青森県民にはこういうところがメリットですよといった、県民や本県の子どもたちが使うメリットというところがもうちょっと盛り込まれてもいい。
- 土曜セミナーでは、郷土の歴史や文化、自然などの幅広いテーマについて行っており、このセミナーが県民カレッジの単位取得の講座と連携している。生涯学習を充実する観点からも、ぜひこれからも続けて行ってほしいなと思っています。応援しています。
- 参加できる、行ってみたい博物館っていうのが、一番郷土館が目指すところだと思う。また、その中でもストーリー性っていうのは、素人の人たちに見せるときに、大事だ。
- 冊子「郷土館のモノ語り」ですが、素敵な題名だし、これが一般の人が読みやすいものなのかな、と思って中を見ると、中身は館報とあまり変わらない。ちょっと勿体ないなと思うところがありました。せっかく、この素敵な名前なので、一般の人にもとっつきやすいものにしたいと思います。
- こちらのホームページは面白いなと思いながら見せていただいておりますが、準備中のところが非常に多く、これから充実されていくのかなと思って、今後を期待しています。
- 体験できる部分が多いと、やっぱり体験しての学習っていうのは一番記憶に残るし身につくと思うので、そういうところを目指して計画して、あと市民の方の意見を入れると、何か魅力的な青森県の、県だからこそその博物館になるのではないか。
- サテライト展について、できればその50周年という冠をつけられないだろうか。平成25年に平尾魯仙で開館40周年記念特別展をやったので、50周年の取組がホームページだけでは寂しいように思う。せっかくのアピールする機会があるなら、冠付けて、郷土館50周年というのは、難しいのかもしれませんが、検討してもらえれば。

- 今純三さんの素敵な銅版画がたくさんあって、それこそ青森の風景が銅板になっているものがたくさんあるので、これ「街かど」で巡られないですかね。すごく行ってみたいな。あの港町どこだろうな、どこから見た風景だろうな、とかここでスケッチでもしたのかな、とかですね、思いを馳せながら見るのがすごく面白いと思う。やはり絵もそうですけれども、ただ見るものではなくて、綺麗とか綺麗じゃないっていうのも、もちろん作品の一部ではありますけども、やはり読む者が、その背景だとか人物を知って、すごく楽しめる部分っていうのが、楽しみ方の一つにあるので、サテライト展では、そういったところが打ち出される展示になるのかなと期待をしています。また、ただ陳列されているだけ、という印象となるのは、やはり払拭したいところかと思います。何か読む側、見る側が読み解けるような、これってこういうことだったなっていう、見るだけじゃない仕組みというのが期待される場所だと思います。

- 巡回展アンケートに、「総合博物館のない県は青森県だけで恥ずかしい文化立県とは程遠い」という意見があった。県立郷土館を総合博物館として見ていない、という認識が見て取れます。郷土館っていう名前がネックになっている部分があるのではないかな。50周年の記念じゃないですけど、50年経って、新しい知事が青森新時代を掲げているときに、新しい名称をつけた方がいいのではないかな。この休館中を利用して新しい名称を変えるっていうのも、リニューアル展示したときの再開に一つの効果があるのではないかな、と思います。だから、私は青森県立郷土館ではなくて青森県立博物館という名称に変えることが、当館にとっても良いことだと思います。